

平成 29 年 10 月 10 日

長崎市長

田上 富久殿

長崎大学

薬学部長 黒田直敬

長崎大学

薬学部同窓会長 山中國暉

分析窮理所遺構の調査、保存、活用についての要望書

このたび小島養生所跡地の発掘調査において「分析窮理所」が発見されたことを受け、分析窮理所遺構保存に関する要望書を提出させていただきたく存じます。

長崎は古くから海外に開かれた地であり、日本の近代薬学の歴史も長崎出島を通じたオランダとの交流から始まりました。長崎大学薬学部の前身は、今から 1890 年（明治 23 年）に創立された第五高等中学校医学部薬学科と非常に長い歴史を有しており、その歴史の中でこれまでに、2008 年（平成 20 年）にノーベル化学賞を受賞されました下村 脩博士を筆頭に多くの優秀な人材を輩出してきました。一方で、理化学の教育や実験を行っていた分析窮理所が長崎大学薬学部の起源の 1 つであるという意見もあります。分析窮理所の調査が進み、我が国で最古の薬学部であることが明確になれば、我が国の自然科学・薬学の原点が長崎大学にあったことが証明されます。こうした歴史的な評価の高まりは、長崎市内外や全国から薬学を志す優秀な学生が長崎大学薬学部に集まることに繋がり、地域医療貢献や科学技術による地域産業活性化を通じて、長崎市の発展にも貢献していくことが期待されます。また、長崎大学薬学部の教職員や学部学生・大学院生ならびに開学以来 8,000 名を数える長薬同窓生の励みにもなると考えられます。そうした際に、分析窮理所遺構の現地における見える形での保存、全面的な調査が必要不可欠です。

分析窮理所で教師を務めたハラタマ、ゲールツは、我が国の近代科学・薬学の発展において極めて重要な役割を果たしました。まず、オランダ陸軍軍医であったボードウィンのもと 1865 年（慶応元年）養生所は精得館と改称し、10 月に物理・化学などの基礎科学教育機関である分析窮理所が設置されました。1866 年（慶応 2 年）5 月、オランダ人ハラタマが来日し、分析窮理所の教師として、化学・物理学・薬物学・鉱物学・植物学などの自然科学を講義し、また、実験を中心にした理化学を教授しました。この後、ハラタマは、1869 年（明治 2 年）5 月に開校した大坂舎密局に招聘されました。大坂舎

密局は第三高等学校となり、後の京都大学の源流となりました。ハラタマは日本近代化学の父とも称されています。1869年（明治2年）に薬学、理化学、植物学を専門とするオランダ人ゲールツが日本政府の招聘で来日し、分析窮理所で物理、化学、幾何学を教授しました。ゲールツは、1873年（明治6年）に長崎税関の委嘱により輸入キニーネの分析を行い、その鑑定報告に添えて粗悪な輸入薬品の取締りと薬品試験所の必要性を建議しました。長崎医学校で校長を務めたことのある長與専齋衛生局長はこの進言をとりあげ、薬品検査機関として司薬場が設置されました。1875年（明治8年）、長與専齋は、日本薬局方の必要性から、京都司薬場監督のゲールツに日本薬局方草案作成の内命を与え、局方制定のための準備を進め、草案をまとめていきました。1883年（明治16年）8月30日、薬局方の成立をみることなくこの草案作成中にゲールツは急性の病により横浜の地で40年の生涯を閉じました。日本薬局方草案作成事業は、長崎司薬場にも務めたことのあるオランダ人エイクマンが引き継ぎ、1886年（明治19年）6月25日、日本薬局方の初版が交付されました。これは、近代的な体裁を持つ局方としては東洋で初めて、世界では21番目にあたる国定局方でした。また、ゲールツは1877年（明治10年）から1879年（明治12年）にかけて日本全土でコレラが大流行した際、長與衛生局長を助け防疫対策を実行し、伝染病予防規則の制定を促すなど今日の衛生行政の基礎を確立しました。国立医薬品食品衛生研究所は、東京司薬場を源流とした日本国内で最も古い国立試験研究機関であり、所内にはゲールツの薬事行政、保健衛生の発展に対する功績をたたえ、顕彰碑が建てられています。このように、日本の近代教育、司薬場の建議と設置、日本薬局方の制定、衛生行政の確立には、分析窮理所やそこで教鞭をとったオランダ人教師が大きな役割を果たしました。以上の理由において、我が国の近代の自然科学・薬学発展における分析窮理所の文化財としての価値は計り知れないものがあります。したがって、分析窮理所遺構の現地における見える形での保存・全面的な調査を強く要望致します。

長崎市は、江戸・明治時代を通じて、我が国における近代の自然科学・薬学の発展に重要な役割を果たした歴史的な価値を有している都市ですが、原爆投下による被害の影響もあるためか、残念ながら遺構と言えるものが少ないのが現状です。このような文化的価値が高い分析窮理所を保存し、医学所を含む小島養生所遺構と併せて、分析窮理所に関わったハラタマ、ゲールツ、医学所を含む小島養生所に関わったポンペ、ボードウィン、松本良順、長與専齋など日蘭の功績者に関する当時の写真や遺構の資料を展示する資料館を現地に建設するなど活用し、長崎が近代の自然科学・薬学や医学の発展に果たした役割やそれに対するオランダの貢献と感謝の意を国内外に発信して欲しいと願っています。それにより、オランダとの交流の絆や長崎市民の誇りが増えることに繋がるものと思います。とりわけ、長崎の将来を担う子供たちへの地元への愛着、自然科学・薬学や医学に対する想いに与える影響は大きいものと思われ、長崎から第2、第3の下村博士を誕生させる契機になって欲しいと願っております。以上、分析窮理所遺構の活用を強く要望致します。